

# 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

## ◆概要版◆ 姫路市

### 調査の概要

本市では、すべての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して『男女共同参画プラン』に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

本調査は、市民の皆さんの男女共同参画社会に関する意識やニーズを把握し、今後の施策展開の参考にすることを目的として実施しました。

この調査の一部をご紹介します。

- 調査対象 市内在住の満20歳以上の男女3,000人(外国人を含む)
- 抽出法 層化無作為抽出
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成23年(2011年)7月14日～7月25日
- 有効回収数 1,175件(有効回収率39.2%)

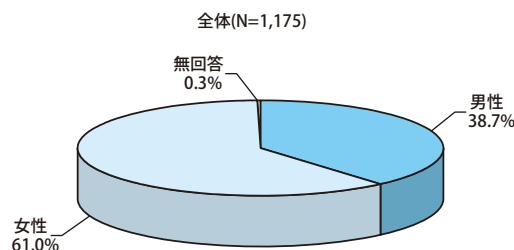
### 分析における留意点

- ・基数となるべき実数は、“N (n) = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出しました。
- ・数値はすべて小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。  
したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・「複数回答」とある問では、各回答の合計が100%を超える場合があります。
- ・市前回調査は「男女共同参画に関する市民意識調査(平成17年度実施)」の数値です。
- ・全国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査(平成21年度実施)」の数値です。

### 回答者の属性

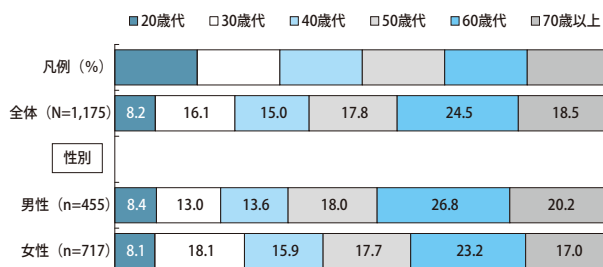
#### 性別

性別は、女性61.0%、男性38.7%と女性が6割を占めています。



#### 年齢別

年齢は、全体で「60歳代」が24.5%で最も多く、次いで「70歳以上」(18.5%)、「50歳代」(17.8%)の順となっています。



#### ●「男女共同参画社会」とは・・・

男性と女性が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

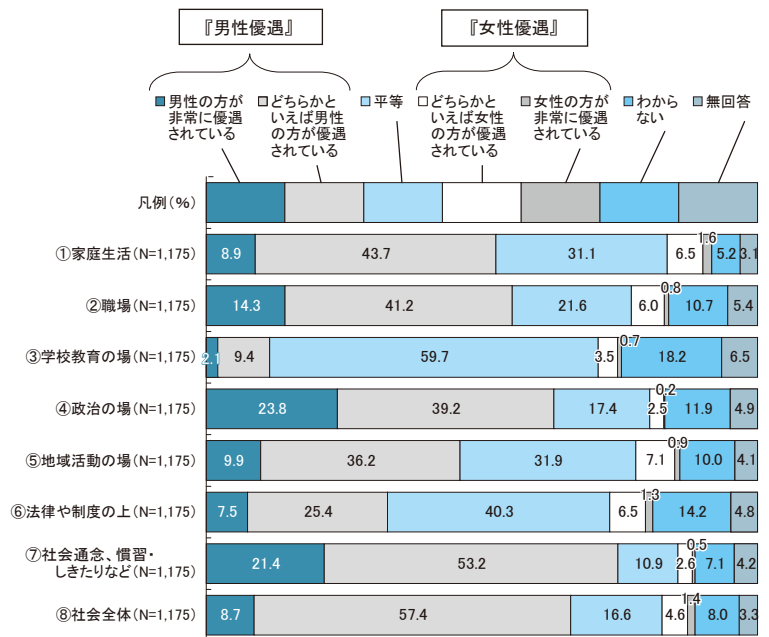
# 1 男女平等意識について

## ■ 各分野における男女の平等意識

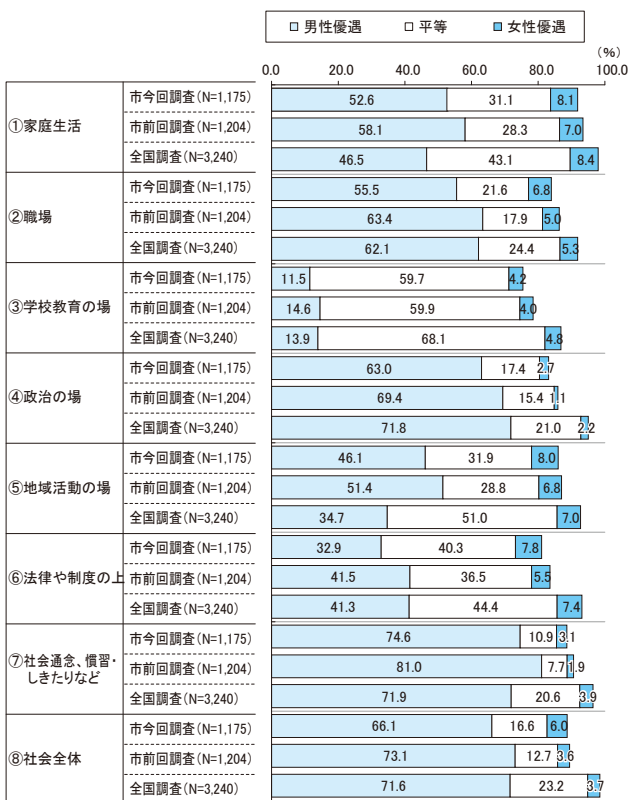
「③学校教育の場」、「⑥法律や制度の上」では、「平等」の割合が比較的高いものの、すべての分野において、『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合を上回っていて、特に、「⑦社会通念、慣習・しきたりなど」、「⑧社会全体」、「④政治の場」は『男性優遇』の割合が6割以上となっています。

前回調査と比べると、すべての分野において『男性優遇』の割合は減少しています。

また、「③学校教育の場」以外のすべての分野において「平等」の割合はわずかながら上昇しているものの、全国調査と比べると「平等」の割合は依然として低い結果となっています。



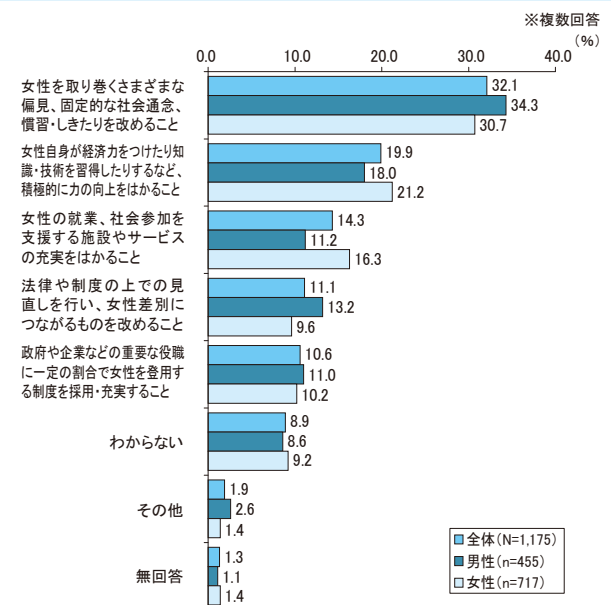
### 前回調査・全国調査との比較



## ■ 男女が平等になるために重要なこと

「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も高くなっています。

また、女性で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」や「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること」がやや高くなっています。



性別による偏見や固定観念にとらわれることなく、改めるべき慣習やしきたりを見なおしていくことが、男女共同参画社会実現のためには必要です。

家庭、学校、職場などで、コミュニケーションを密にとり、性別や年齢にかかわらず互いに尊重し合い、理解し合うことで、すべての人が自分らしく生きることができる社会を実現しましょう。



# 2 職業生活について

## ■ 女性のライフスタイルの理想と現実

女性のライフスタイルの理想と現実ともに、『再就職型』が最も高く、次いで『職業継続型』、『出産退職型』、『結婚退職型』、『家事専念型』の順となっています。

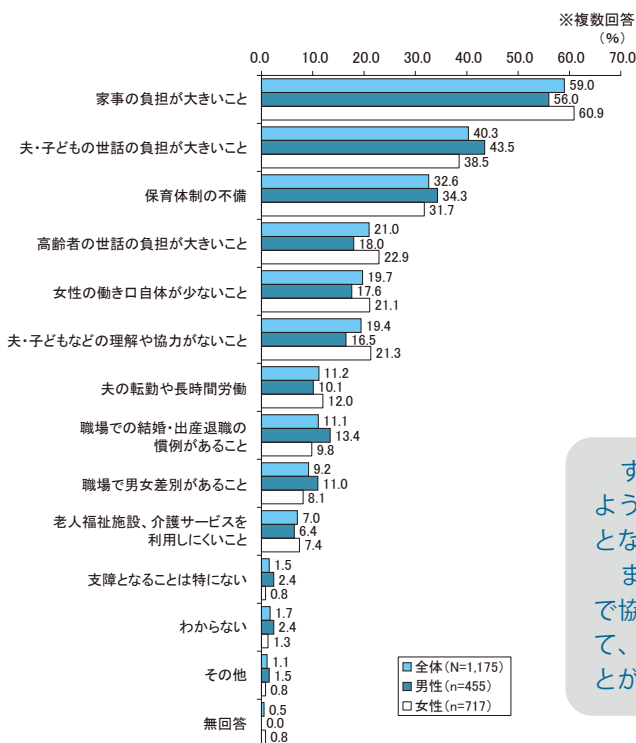
理想を『再就職型』としている人で、現実にはそれを実現できた割合は約3割であり、実際には『出産退職型』や『職業継続型』である割合もそれぞれ2割程度あることがわかります。理想を『職業継続型』としている人でも、現実にはそれを実現できた割合は2割程度にとどまっております。実際には『再就職型』である割合が4割以上、『出産退職型』の割合が2割弱あることがわかります。

※「職業をもたない」を『家事専念型』  
 「結婚するまでは、職業をもつ」を『結婚退職型』  
 「子どもができるまでは、職業をもつ」を『出産退職型』  
 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」を『再就職型』  
 「ずっと職業を続ける」を『職業継続型』  
 とあらわしています。

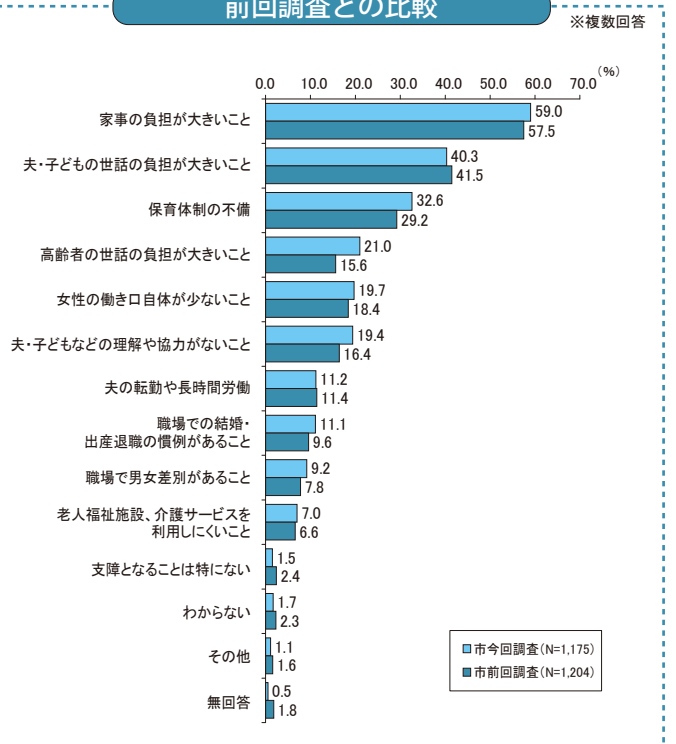
	現実 (%)					
	家事専念型	結婚退職型	出産退職型	再就職型	職業継続型	わからない
全体 (N=1,175)	5.1	8.8	15.7	30.5	17.5	7.9
理想						
家事専念型 (n=38)	21.1	5.3	15.8	34.2	5.3	5.3
結婚退職型 (n=68)	4.4	25.0	7.4	44.1	11.8	1.5
出産退職型 (n=98)	3.1	4.1	21.4	32.7	17.3	9.2
再就職型 (n=401)	6.2	12.7	21.9	28.7	20.4	5.0
職業継続型 (n=355)	3.1	4.8	16.1	44.5	23.1	4.8
わからない (n=62)	1.6	4.8	8.1	8.1	8.1	43.5
男性 (n=455)	5.7	10.3	16.3	29.9	13.6	7.3
理想						
家事専念型 (n=24)	29.2	4.2	12.5	29.2	4.2	8.3
結婚退職型 (n=30)	3.3	23.3	10.0	50.0	6.7	0.0
出産退職型 (n=46)	0.0	6.5	26.1	19.6	19.6	10.9
再就職型 (n=137)	6.6	16.1	25.5	31.4	13.1	2.2
職業継続型 (n=116)	4.3	6.9	13.8	48.3	21.6	1.7
わからない (n=33)	0.0	3.0	9.1	12.1	6.1	39.4
女性 (n=717)	4.6	7.8	15.3	31.0	20.1	8.4
理想						
家事専念型 (n=14)	7.1	7.1	21.4	42.9	7.1	0.0
結婚退職型 (n=38)	5.3	26.3	5.3	39.5	15.8	2.6
出産退職型 (n=52)	5.8	1.9	17.3	44.2	15.4	7.7
再就職型 (n=264)	6.1	11.0	20.1	27.3	24.2	6.4
職業継続型 (n=237)	2.1	3.8	17.3	43.0	24.1	6.3
わからない (n=29)	3.4	6.9	6.9	3.4	10.3	48.3

## ■ 女性が働く上での支障

「家事の負担が大きいこと」が最も高く、次いで「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」の順となっています。前回調査と比較すると「高齢者の世話の負担が大きいこと」の割合がやや増加しています。



### 前回調査との比較



すべての人が自分の望む職業生活や家庭生活をおくることができるように、男性も女性も必要な力を高めるとともに、企業・行政も一体となって支援策や働き方の見直しをはかっていくことが必要です。

また、少子・高齢化が進む中で、高齢者介護については、家族全員で協力することはもちろんのこと、一人ひとりが地域生活も大切に、地域ぐるみで、社会全体で支えていく仕組みを築きあげていくことが重要です。



# 3 結婚、家庭生活と男女の役割について

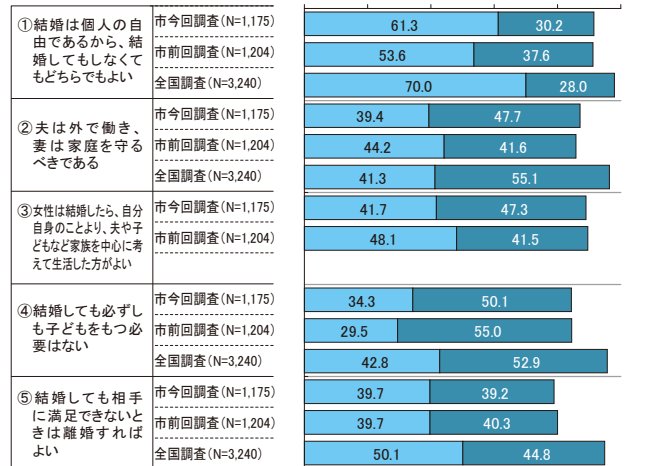
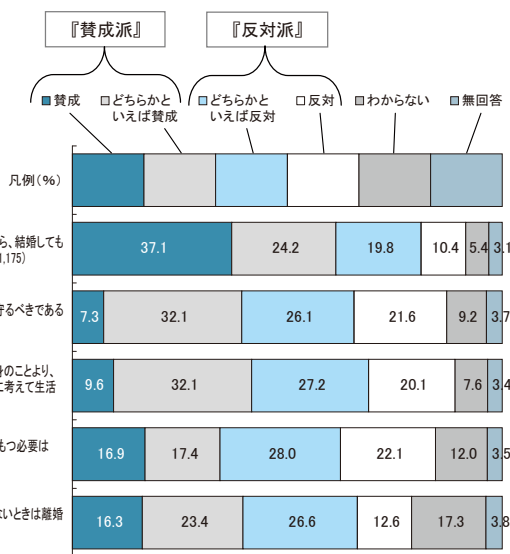
## ■ 結婚、家庭に関する考え

「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で『賛成派』（61.3%）の割合が高く、一方「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」で『反対派』（50.1%）の割合がやや高くなっています。

前回調査・全国調査と比較すると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」や「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」の『賛成派』の割合は、前回調査と比べるとそれぞれ増加していますが、全国調査と比べると比較的低くなっています。

また、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」や「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の『反対派』の割合は、前回調査と比べてそれぞれ増加しており、『反対派』が『賛成派』を上回っています。

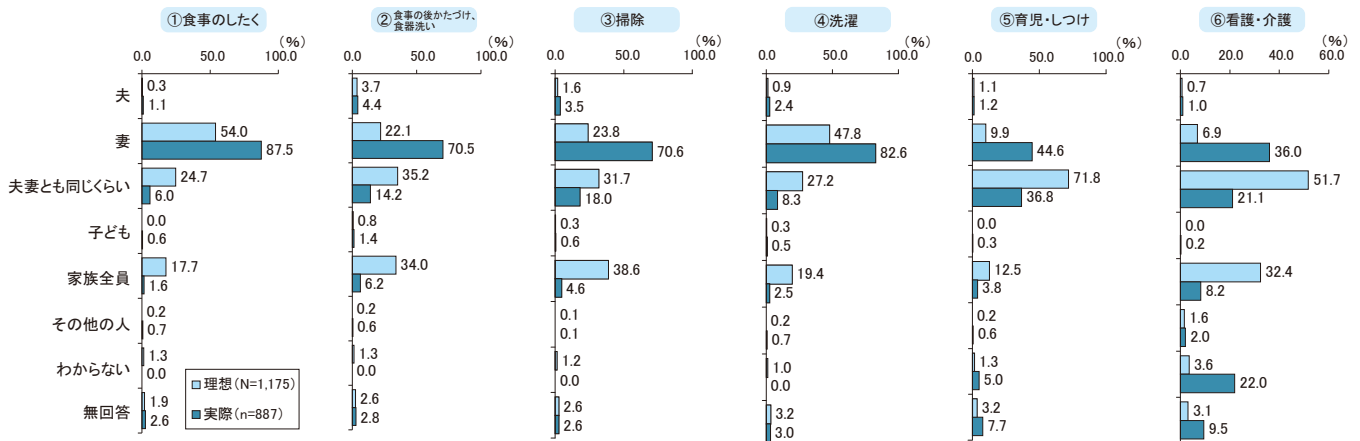
### 前回調査・全国調査との比較



※全国調査では「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の設問はありません。

## ■ 家庭内の仕事の分担についての理想と実際

家庭内の仕事のすべては実際に「妻」が担っている場合が多く、理想としては「夫妻とも同じくらい」の割合が特に高い「⑤育児・しつけ」、「⑥看護・介護」なども、実際は「妻」の割合が比較的高いことがわかります。家庭内の仕事のすべてを実際は「妻」が担っている場合が多いという傾向は、前回調査から変わりません。



「男性は仕事、女性は家庭」といった性別で役割を固定化する考えは、女性の家庭での負担を重くし、希望するライフスタイルを選択できなくなることにつながりかねません。

また、男性にとっても経済的責任が重圧となり、自由な生き方を妨げることになるかもしれません。

夫妻、家族でよく話し合い、それぞれの家庭の希望や状況にあった生活がおくれるよう、考えていきましょう。

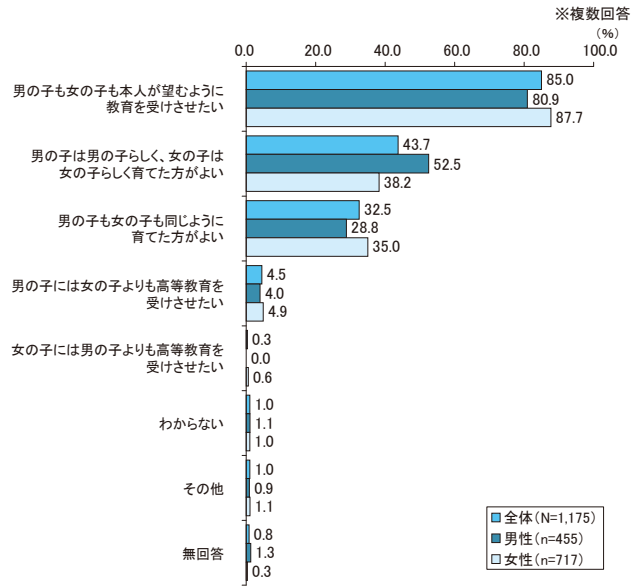


## ■ 子育てについて

「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」が最も高いものの、男性では「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」の割合もやや高い結果となっています。

男女共同参画社会を実現するためには、子どもの頃から男女平等について意識を高くしていくことが大切です。

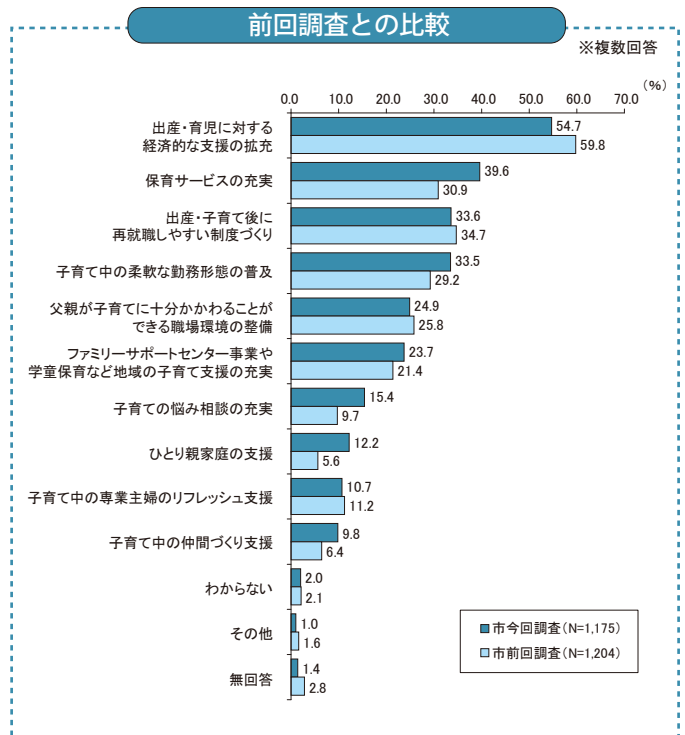
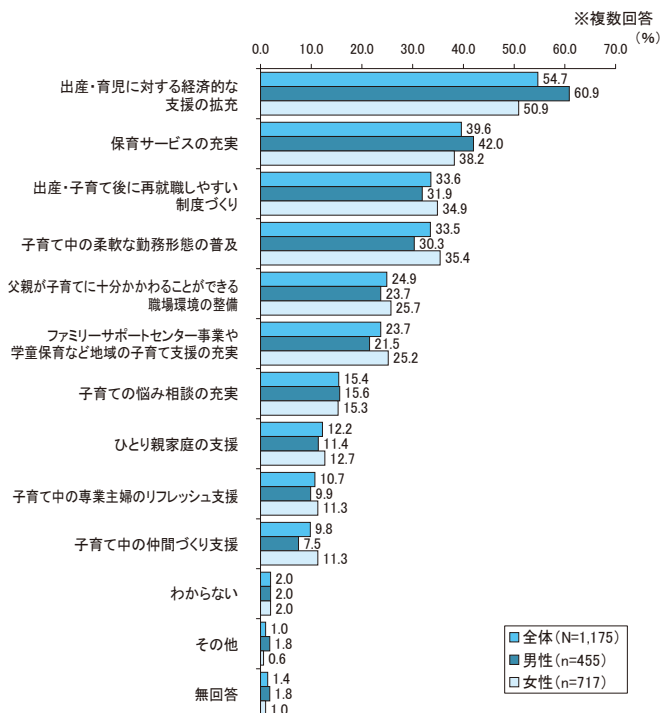
学校教育だけでなく、家庭においても男女の人権を尊重した行動を心がけましょう。



## ■ 安心して子どもを産み育てるために必要なこと

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が最も高く、次いで「保育サービスの充実」、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の順となっており、特に、現在子育て中の世代では「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「保育サービスの充実」、「子育ての悩み相談の充実」、「ひとり親家庭の支援」の割合がやや増加しています。



核家族化が進行し、地域のつながりが希薄になっている現状では、子育て家庭の孤立化が心配されています。

男女ともに子育てに関わることができるよう、働き方の見直しや保育サービスの充実をはかっていくことが大切です。

また、子どもの成長には多様な人格との深いかわりが必要です。家庭だけでなく地域も巻き込んで、子育てをすることができる仕組みをつくっていきましょう。

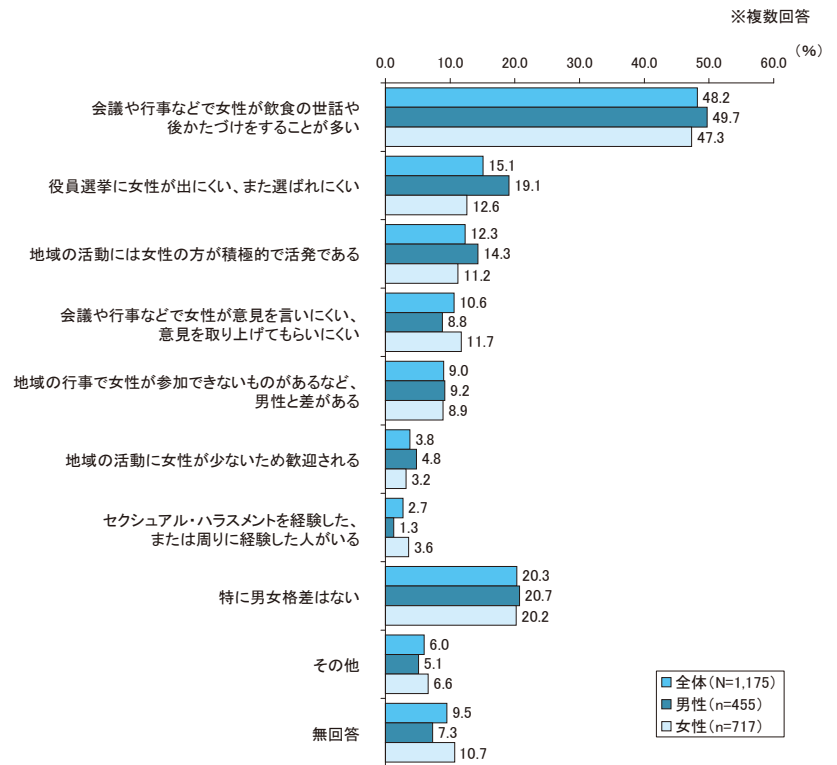




# 4 社会参加活動について

## ■ 地域の現状

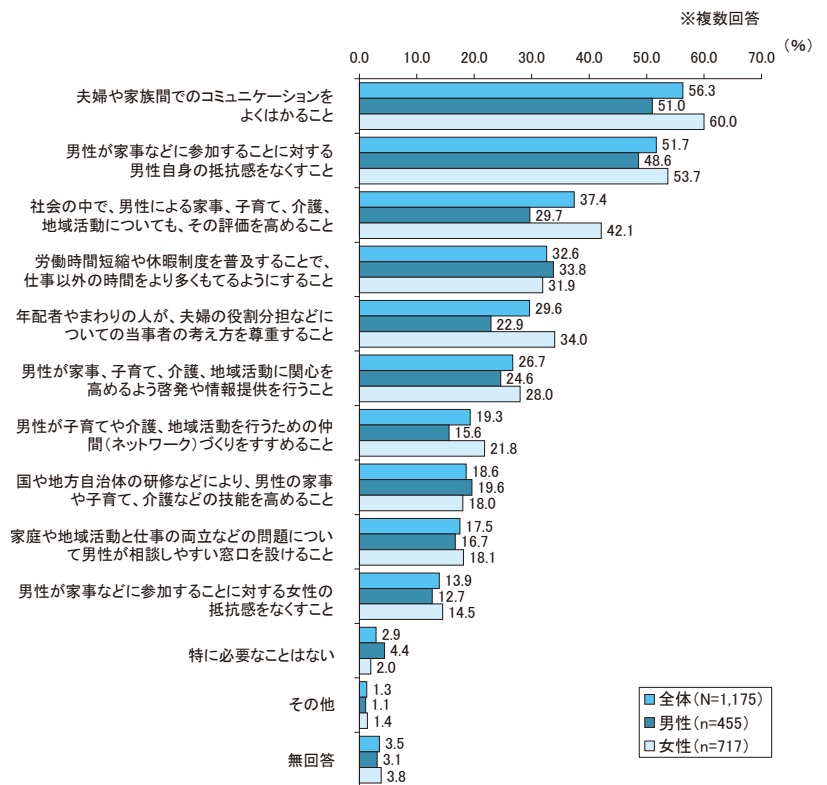
「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が最も高く、次いで「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の順となっており、「特に男女格差はない」は2割となっています。



## ■ 男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」の順となっています。

また、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」の割合が比較的高くなっています。



大災害が発生した直後や非常時には、地域における「共助」が最も重要となります。いざという時に助け合うためには、日頃から地域活動に積極的に参加し人と人とのつながりを強めて、地域を活性化することが必要です。

男女間や世代間でよく話し合うことで相互理解を深め、性別役割分担意識に根ざした慣習を払拭し、男女がともに活躍できる地域社会をつくりあげていきましょう。



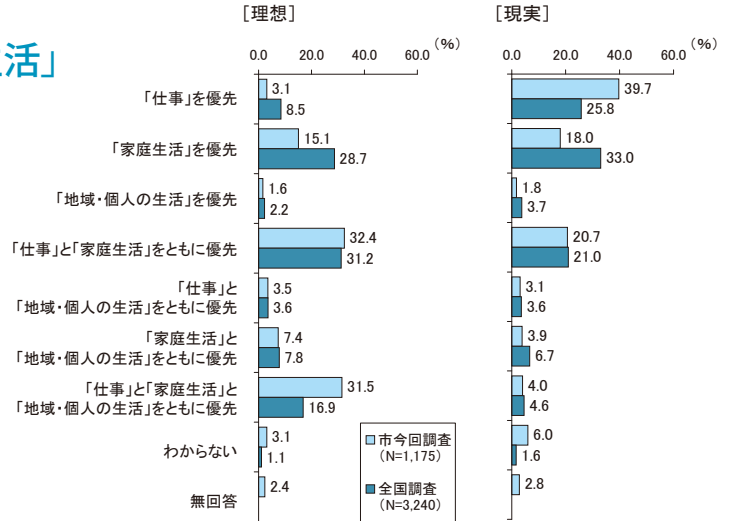
# 5 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) について

## 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の理想と現実

「理想」は、男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先」や「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が高いが、「現実」は「仕事を優先」が最も高く、特に男性でその傾向が強くなっています。

全国調査と比較すると、「理想」では、「家庭生活を優先」の割合が低い一方で、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の割合が高くなっています。

「現実」では、全国調査より「仕事を優先」の割合が高い一方で、「家庭生活を優先」の割合は低くなっています。



男女がともに「仕事」以外の活動にも自分の時間が割けるような職場環境づくりが大切です。一人ひとりがワーク・ライフ・バランスを実現することは、少子・高齢社会の中で地域の力を維持していくためにも大切なことです。

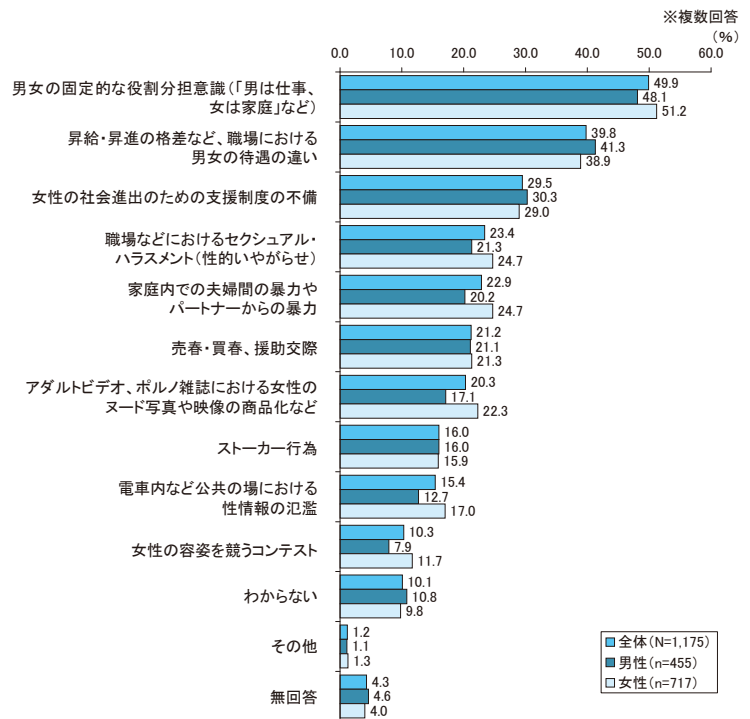
# 6 人権について

## 女性の人権が尊重されていないと感じること

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」が最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の順となっており、性別でも同様の傾向を示しています。

男女の固定的な役割の「意識」と「実態」が払拭されるよう、人権尊重という観点から男女のあり方を見直し、行動していくことが大切です。

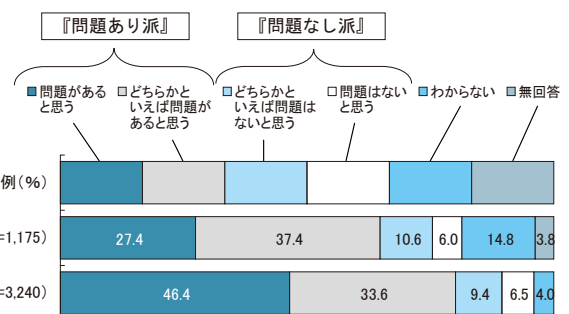
大量の情報が発信される現代社会の中で、適切な情報を読み解き、活用できるよう、知識・判断力を高めていきましょう。



## メディアにおける性・暴力表現について

メディアにおける表現について、6割以上が何らかの問題があると感じています。

ただし、全国調査と比較すると、「問題があると思う」の割合は19ポイントも低く、『問題あり派』の割合が低くなっています。



# 7 男女共同参画に関する施策などについて

## 男女共同参画関連事項の認知度

「知らない」割合が高い項目は、「⑩リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）」、「⑧ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」、「⑫メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）」で、「内容まで知っている」はすべての事項で3割未満にとどまっています。

### 「ポジティブ・アクション」とは・・・

「積極的改善措置」のことで、『男女共同参画社会基本法』では、男女が社会の対等な構成員として、自分の意思で社会のあらゆる分野での活動に参画する際の＜男女格差を改善するための措置＞として、男女のいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供することを規定しています。

### 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」とは・・・

「性と生殖に関する健康/権利」と訳されます。身体的・精神的・社会的に良好な状態を保障し、性生活や妊娠・出産などでの女性の自己決定権を尊重するという考え方をさします。

### 「メディア・リテラシー」とは・・・

次の3つを構成要素とする、複合的な能力のことです。

- 1) メディアを主体的に読み解く能力。
- 2) メディアにアクセスし、活用する能力。
- 3) メディアを通じコミュニケーションする能力。特に、情報の読み手との相互作用的コミュニケーション能力。

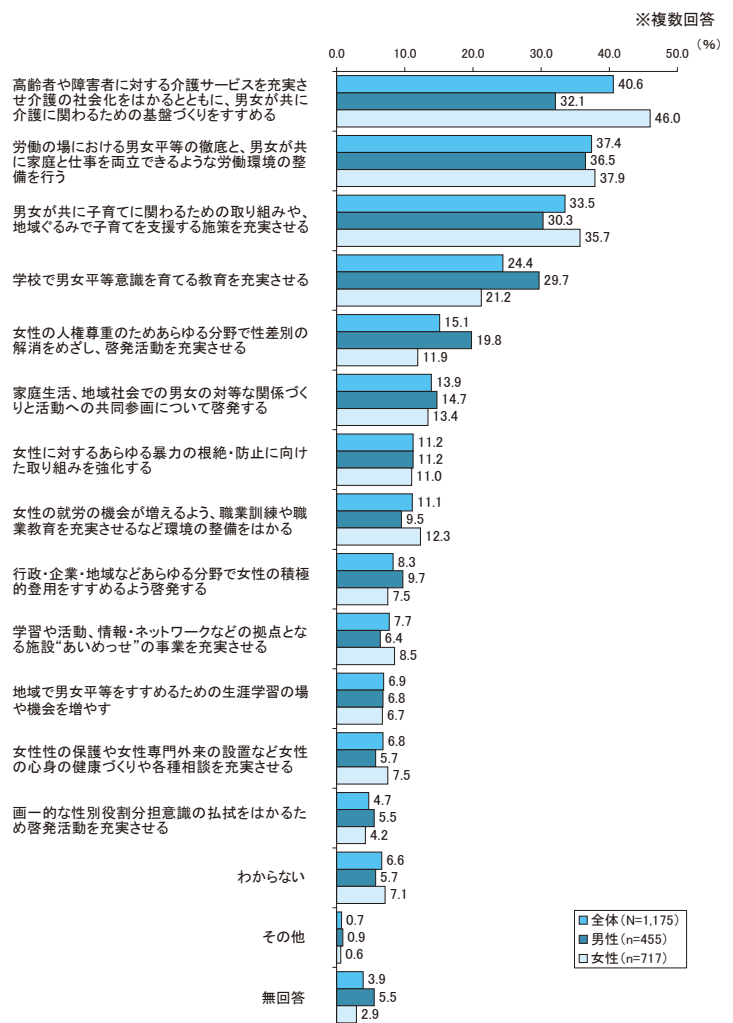
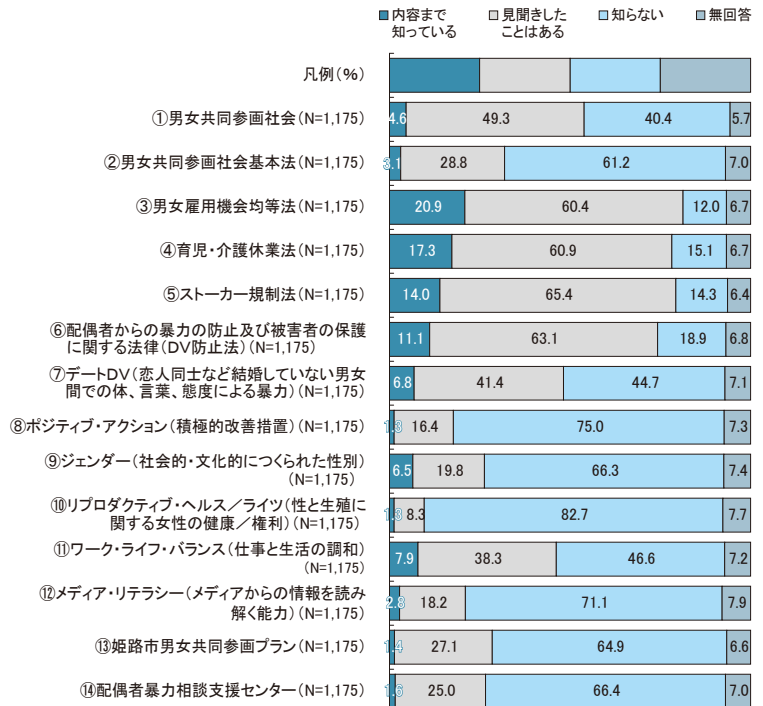
## 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと

「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」が最も高く、次いで「労働場における男女平等の徹底と、男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」、「男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」、「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」の順となっています。

また、女性で「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」、男性で「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」の割合が比較的高くなっています。

姫路市男女共同参画推進センター「あいめっせ」では、男女共同参画について理解を深められるように、男女共同参画に関する学習・活動の機会や情報を提供しています。是非ご利用ください。

<http://www.city.himeji.lg.jp/i-messae/>



## 男女共同参画に関する市民意識調査報告書(概要版)

平成24年3月  
発行/姫路市男女共同参画推進課  
〒670-0012 姫路市本町68番地290 イーグレひめじ3階(あいめっせ内)  
TEL:079-287-0803 FAX:079-287-0805  
<http://www.city.himeji.lg.jp/2870803>